

## 平成30年度第1回加西市子ども・子育て会議録

日時：平成30年9月11日（火）

14時58分～17時02分

場所：加西市役所5階大会議室

1. 開会
2. 委員の紹介
3. 議題

(1) 平成31年度認定こども園等入所申し込みについて（資料説明）

○会長

申し込みは10月になってからということですね。読みはどうですか。

○事務局

0～2歳の入園希望の方が、毎年増えており、入所が難しい状況です。

○会長

そのときのバックアップってというのは何か、どうですか。これで全て。数字的には各年齢の子どもたちの対応ができますか。そこは大丈夫ですよ。

○事務局

頑張っていきたいと思います。

○A委員

0、1、2歳の余裕がない、全員、入れていないということですか。

○事務局

枠はありますが、それ以上に0、1、2歳で預けたい方が増えており、去年よりも増えているとすれば、保育士の確保等、対応を図る必要があります。

○A委員

事前に多目に確保しておくことは難しいのでしょうか。

○事務局

既に一杯、ぎりぎりまできており、現在、途中から入りたい方は保留しております。年度途中は無理でも来年に向けて保育士を確保する形になります。

○会長

待機児童ゼロとか、それぞれの市でゼロっていうのをすごく誇らしげによく言われますから、加西市も大丈夫ですよ。

○事務局

楽観視できない要因として、消費税の税率が上がることに関連して、保育料の無償化を国で検討しています。加西市も4歳、5歳は5,000円を上限に軽減していますが、国では3歳までを含めた話が出ています。そこでどういう影響が出るか。

○B 委員

無償化というと何か随分、ただになったらいいように聞こえますが、正しい意味では本当は、無償化じゃなくて税金化ということ。これは誰が払うのか。保育士は決してボランティアで働いてくれるわけではなく、他のところに使っていた税金をこっちに回すという話。何でもただでよいと思いますが、実は他のところで、もしかしたら、もう少し必要だったところがなくなってしまうかもしれないというのはありますよね。

○会長

無償化したときに必要とされる7,000億を国も見繕ってこないといけない。加西市も頑張っているということは感じ取っていますのでね。市長にも伝えといてください。ほかにどうでしょうか。制度設計して、両手広げてニーズを受けとめていくことをご披露いただいたと思います。精一杯受け入れていただくという努力も、市としても求めていますよね。ありがとうございました。

(2)「加西市子ども・子育て支援事業計画」の作成に向けたニーズ調査について（資料説明）

○会長

全ての人を対象にしているという悉皆調査と無作為。無作為は全てでなくて、先ほど住民台帳からサンプリングしてっていうね。数字を見ますと、例えば就学前ゼロから5歳の子ども、現時点では全数で何名ですか。

○事務局

5年前の数字になりますが、そのときは0から5歳までの全数は1,870人。それから、小学生は2,346人で、就学前は1,200、小学生の方は800通を配付しました。今回も5年前と同じ数を配付する予定です。回収率を7割見て、サンプリングの有効数には十分であると調査会社からも意見をいただいております。

○会長

悉皆調査、全部をとっても1,870名で1,200だから、せっかくだから全部とったらどうよと。予算が大幅に増えることはないと思いますが。データ処理に関してもね。それから小学生でも2,300幾らで800、サンプリングの比率がちょっと少な目ですよ。どうして小学生では比率を下げたのか、いろいろ細かいことは気にはなります。理想的には悉皆調査がいいとは思いますがね。

外国籍の人は、無作為だから入る場合もありますね。幼稚園教育要領でも保育所保育指針でも、帰国子女の子どもたちに対する特別に配慮をしていくとありますよね。帰国子女とか外国籍の人とか、そういう方々にとっての育児不安、子育て不安とか、子育てニーズがありまして、無作為だと削ってしまう。予算が大分違うのであれば、いいですが。ちょっとそれは一般的な質問としてさせておいていただきたいと思います。それから、加西市の合計特殊出生率はどのくらいですか。全国

平均と兵庫県平均と加西市と、この3つの数字また比較して。

○B 委員 兵庫県より低いです。全国平均よりも低い。

平成 28 年度 合計特殊出生率

加西市	兵庫県	国
1.39	1.49	1.44

○B 委員

人口ビジョンというのがありますね。うちの市は、うちの町は人口がこれぐらいになるだろうと予想して、その人口に合わせたまちづくりをつくっていく。それを見る機会があって、加西市の人口ビジョンに関しては、この人口ビジョンをもとに施策をやろうとすれば、かなり現実とは、ずれてくると思ったことがあります。中間地点が 2040 年で、そのときの人口は、国立社会保障・人口問題研究所の予測と各市町の予測とを比較しています。大体、人口予想というのは、大体当たります。

例えば近隣市で見ましたら、加東市は現在人口 40,500 人で、2040 年には 37,000 人になっている。これが国立社会保障・人口問題研究所の予測です。それに対して、加東市は、こんな施策をすればもう少し人口は減少を防げるということで、38,000 人ですね。2,500 人くらい減るけれど、維持できる。国立社会保障・人口問題研究所の予測と市の予測との差は大体 1,000 人ぐらいです。小野市もそうです。国の予想では 3,000 人減らすけれど、地元では 1,800 人程度の減少で済んだと。

加西市は、2040 年の国の予想では 35,000 人です。ところが加西市では人口 5 万達成、5 万人回復です。ここまで再生することを堂々と打ち出しています。余りにも乖離がある。15,000 人の差は、どういう根拠でこんな予想ができるのか、私は不思議でなりません。

○事務局

人口推計は科学的に数字が出ますので、大きな誤差は出ないと思います。それに基づいて、それぞれの市が目標を持つのは、本来の考え方だと思います。加西市も先に数字を試算した上で、市長が掲げる政策として 5 万人という、言い方は不適切かもしれませんが、スローガンであると思います

だから、わかりやすい人口目標と科学的に分析した推計人口の 2 つがありますので、正確に数字を予測していくという部分については、B 委員の言われるとおり、人口統計から導き出す推計値を導く。ただ、夢を実現していくという部分においては、5 万人再生を掲げ、人口の使い分けがあると思います。絶対 5 万人になるというわけではないと認識します。

○B 委員 選挙用のスローガンと、それから科学的なデータとを両方出している。

○事務局 それを掲げて出していますので。

○B 委員

インターネットで堂々と市のビジョンと出しているところはないです。人口 5 万人を根性論で言

い続ければ何とかなるみたいな話で、加西市が人口5万人になるということで、いろんな施策のもとにしてやられるのでは、社会主義の国のスローガンでしかないというか。

○会長

政策の中に裏づけていく取り組みの中で、推計値を出されていると思いますが、B委員の意見も踏まえて、事務局としては整理して、使い分けておく必要があるかと思います。

それから、加西市規模だったら悉皆調査でいけるとと思いますが、予算的な限界があれば別でしょう。例えばNHKの視聴率がありますよね。NHKの視聴率は全国で3,000人しかとっていません。日本にテレビ見る人、どのくらいいますか。そう考えると、加西市の800名、1,200名が、化け物的なサンプリング数です。でも、加西市の人口規模からすると全数とってもいいかなと欲な意見も出しています。これは聞き流してもらってもいいし、聞きとどめるか、聞きおくか、一応意見としてね、考えてみますけどね。

ニーズ調査の中身の点について何かご質問等ありますか。新規、独自という説明もございましたので、就学前もあるし、小学生の分もありましたよね。もし悉皆調査、全数するならば、外国籍の人の独特のニーズ、調査内容もあるかもしれませんね。外国籍の人は保育所とか幼稚園行っても不安なんですね。あるいは災害時のときにも。そういったところにも配慮していくような調査内容だといいいかなと思います。住民に対する温かい考え方を反映させることもご検討いただけたらなと思います。どこかに枝分かれの質問項目として押さえていただければと思います。

○OC委員

外国籍の方について私どもの園にも約10人いらっしゃいます。このニーズの調査が、全家庭に行くようであれば、この内容では外国籍の方は理解しづらいと思います。私どもは、お手紙を出すにしても、平仮名でルビを振って、それでも理解できなかつたら、個別に対応しています。このまま外国籍の方に配付するのであれば、そのあたりも検討が必要だと思います。

○会長                   意見として記録しておいてくださいね。ほかにどうですか。

○OA委員

今、外国人の方にルビを振るという話が出ましたが、障害のある方のニーズは、このアンケートでは拾っていただけないように見えます。そのあたり、別に用意していただけるのでしょうか。

○事務局               例えば、何か手帳をお持ちですかという聞き方になりますでしょうか。

○OA委員

加配のことですごく不安に思われる方や、小学校の学童保育にも入れないという話をよく聞きます。学童保育について、入れたい時間や日数を細かく書いてありますが、実際入れない家が多々あるのを考えると、何かしていただけるといいなと思います。

○会長

子どもに対する配慮が伝わってくる質問は、非常に重要な行政の責任になると思いますので、も

う一度、調査会社の人に工夫してもらうようにしてもらえませんか。これはやはり大事ななど。こういう調査の形の中に市としての考え方がにじみ出る。そういった考え方を示すということは必要かもしれませんね。

#### ○D 委員

そのとおりだと思います。ちょっとご質問させていただいてよろしいでしょうか。まず調査客体について、これは就学前の子どもさんと小学生のいる世帯ですね。この全体の子育て支援のところで、一般的に18歳とか、福祉法上の考え方があります。障害児を持つ親の家庭、外国人、中学生や高校生を持つ子どもの親など調査客体が広がりますが、その整理が要ると思ったのが一つです。

それから、もう一つは、支援者の立場ですね。支援者から見た子どもの育ちみたいところです。

例えば、民生委員の制度ができて、100年です。児童委員の方は70年になります。それから主任児童委員ができて25年という節目でありまして、そういう貴重な地域のいわゆる支援者の意見です。また別の角度で、リサーチする機会もあるとは思いますが。それから先ほどの人口の話ですね。既に少なくなっています。全体をまとめていく上でのターゲットのところと、アンケートをとられる意図のところはちょっとあればいいかと思い、発言しました。

#### ○事務局

調査分析をするということで、一つはアンケートを予定しています。ただ、アンケートだけでは限られますので、さまざまな、お話がありました支援者の方についても、聞き取りという形でインタビューですとか、個別のアンケートを用意したいと考えています。また、特別支援のお子さんがいらっしゃる方については、通り一遍の質問や答えが難しいですので、もう少し丁寧な聞き取り方を考え、対象者、あるいは項目なりを膨らましていきたいと思います。

#### ○B 委員

A 委員から学童保育に入れてもらえないという話がありましたが、確かにそのとおりです。学童保育も入れず、スイミングクラブとか放課後のいろんな場所、学習塾でも、どちらかというところとノーと言われ、行くところがない状況があります。今、放課後デイサービスという発達障害児や障害児のための学童保育のサービスも出てきております。それから児童発達支援センターなど療育的なものもあります。例えば、放課後デイサービスがどれぐらいのニーズがあるのかとか。あるいは児童発達支援センターは小学校行くまでの子どもが対象の療育施設ですけど、そういうものに対するニーズがあるのかということもあわせて調べていただけたらと思います。

6年前、現場の小学校教師を対象にした文科省の調査（「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」）結果についてで、現場の先生から見ると、発達障害の疑い、あるいはそのグレーゾーンにいる子どもたちの割合が6.5%と言われております。従来からのいわゆる障害のお子さん、知的障害者とか、あるいは肢体不自由の障害者の方は3.5%ぐらいですから、合わせると大体10%ぐらいの子どもたちに障害があるか、障害を疑われる状況で、思ったよりはるかに多い。それに対する対応を早期に行えば効果が出ますので、やらないといけない。加西市でも実際にはもっと隠れたニーズがあると思えるので、このような意見を生かしていただきたい。

## ○E 委員

小学生対象のアンケートに関して言えば、先ほどの発達障害も含め、支援の必要な子どもさんへのアンケートについての工夫、内容の検討も必要と思いますが、特に就学前になってくると、親の意識っていうのが非常に、こういう形のアンケートを実際にとるっていうことになると、親の意識の中で、子どもの親としてアンケートに答えるのか。そうではなく通常のアンケートのままに答えてしまうのかという回答のとりにくさの部分はすごくあるので、アンケートということになると非常に難しい部分が考えられると思います。

○会長                    コンサル会社とはその議論は出ましたか。

## ○事務局

今日の内容をそのまま事業者を持ちかけて対応させていただきたいと思います。やはりアンケートは最大公約数的なところがありますので、限界があります。個別に対象を選んでの聞き取りも、アンケートは別に丁寧聞く作業も必要だと思いますので、アンケートの得意な部分と苦手の部分も事業者と相談します。

## ○会長

マルチリサーチをするということですよ。これはこれで最大公約数の共通という無味乾燥な第一アプローチ、基本アプローチとして。あと、もう少し住民の構成員ということに配慮する中において、第二アプローチ、第三アプローチとかいって、そういう間口のアプローチの中で、リサーチする考え方を先ほども示されましたので、その設計も含めて、この基本調査の中で、今日、出された意見で少し組み込む、組み替える。あるいは、問いの中の枝分かれの選択項目を少し工夫する等々ですね。拾えない場合のその他の自由記述の中で、その部分を盛り込んでもらうとかですね。

どなたもいろんな自分の立場の中で回答しやすい、そういう質問項目、選択肢等ですね。それから先ほど外国籍の方、ルビを振ることがありましたので、今はそういう調査は非常に多いですね。そういったような配慮も必要になる。これも大事なことと思います。

## ○F 委員

民生委員の立場からですが、例えば障害者福祉とか、老人福祉とかの何年計画というものがあって、そのときにコンサルがもう少し対象者の立場でできないかとも思います。

福祉施設の建設や募集とかについて、コンサルが入りますが、どうしてもコンサルサイド、あるいは福祉施設のサイドで、利用者のサイドが抜けていると、こういった計画で思います。

それからもう一つは、輪切りになっていることです。子どもはこうあって、障害者はこうある。多面的なものが絡み合っていかなければ、だめじゃないかなって思います。例えば台風で、加西市から避難場所が設置されましたと放送がありました。それに対して誰がそこへカバーに行くのか。

何かしなければいけないという思いを民生委員は持っていますが、どこまでしなければいけないのか。何か輪切りの、「じゃ、区長さんと町役員さんと民生委員さんで、このようにしてもらえば」というのがないですね、実際に。

幼児教育、保育だけでなく、その親御さん、おじいちゃん、おばあちゃんからもニーズが拾い上げられるかなと思います。民生委員は8年前から市の委託で生後2カ月から4カ月ぐらいの乳児を対象に「赤ちゃん訪問」の事業を受けています。その中で大半のうちが、民生委員であれば、うち

に来てもらってもいいですよって。何件かは訪問を拒否される場所があります。例えば障害者の方とか、外国人の方とか、あるいは、うちがかわってほしくないっていう、3種類ぐらいの拒否の形があります。そういったことも含め、ここで調査できる以外の人たちというのは難しいですね。

市の委託で民生委員が、災害時の要援護者を町ごとに報告しています。ところが、身体障害者なり高齢者は把握できますが、B委員が言われたようなように、こちらで判断できない障害者たちが把握しにくい。赤ちゃん訪問に行くと、障害者の方は表に出されません。そういった立場の人たちの現状があると思います。

それから、A委員が言われたことがものすごく大事だと思いました。地域にはまだまだ消防団や婦人会的なものがあり、また、送迎してくれるママさん友達があります。先日、「この前、警報が出たときに、子どもを園へ連れて行ったら、今日は子どもが余り来てないから、もう連れて帰ってと言われた。」とかね。市内でも、人数が少ないから連れて帰ってくださってという園もあったと聞いています。園の職員の気持ちや受けとめ方が、子ども中心なのか、園中心なのかによって、違うのかなと思います。届きにくい声や意見をもう少し出るように、もっと拾い上げができればと思います。

#### ○会長

このニーズ調査は割り切れば、キャパの確定をしていくための一つの調査であると思います。ただ、本会としてはキャパだけの問題ではなく、そこでの受け入れていく環境の質、あるいは受け入れた後のきめ細かい保育の中身に関しても、目配りしながら、このキャパの問題を考えていくところだと思います。この2調査は、待機児童がないように整えていくよというところに主目的があることも認識いただきながら、実際受け入れて、どのように責任を持って、保育を進めていくかというのは、それぞれの現場、現場で、しっかり受けとめていく責任、課題がありますので、そのあたりを映し出していく調査項目であってほしいというご意見だと思います。

もう一度早急に修正等努力していただけますかね。コンサルは、パッケージをぽんと持ってきますから、僕もコンサルの人たちを教育することも結構これまでもありましてね。ぜひ、コンサルに教育してあげてください。

○事務局            わかりました

#### ○会長

今日のご意見を十分に踏まえて、よろしくどうぞお願いしたいと思います。そういう条件つきでありますけど、とりあえずこのニーズ調査等についてよろしくご了解いただければと思います。続きまして、会議のスケジュール等についてであります。

### 4. その他

#### ○事務局

今回はアンケート後に集計、分析作業を予定しています。アンケートがまとまった段階で、また皆様にご報告します。しばらく時間が空きますが、2月28日木曜日に皆様にお集まりいただきたい

と思いますので、よろしく申し上げます。

○会長 最終的には議会を通しますか。

○事務局 平成 32 年の 3 月議会の提案になろうと思います。

○会長

まだまだ先がありますが、気長に熟成した議論をしましょう。それでは、B 委員からのお申し出を事前に聞いておりますので、ご発言いただけますか。

○B 委員

私だけでなく C 委員からも少しお願いしたいことがありますので、途中でバトンタッチをしたいと思います。まず 1 点目ですけれど、この子ども・子育て会議の議事録のホームページのアップについてなんですが、以前はホームページで議事録を全部閲覧することができましたが、今は議事録を見ることができません。加西市以外では、議事録を公開しております。近隣の市も全部調べてみました。加西市は、以前公開していたのに 2 年前から公開されなくなっています。今年 2 月の議事録も、出席者には配っていただきましたが、一般市民の方は見ることはできない。秘密会議ではないので、前回の分も含めて、他市並にホームページにアップをお願いします。次は C 委員からお願いします。

○C 委員

この会議に出るたびに私が言い続けていることです。加西市には公立と民間と 14 園あります。

前回にも言いましたように、新しい保育指針とか幼稚園教育要領とか、認定こども園の教育・保育要領が改定されて、私たちが以前から感じていたところを取り上げられました。幼児期から小学校に上がる保幼小の連携というところが大きくうたわれております。

幼児期が根っこにあって、小学校、中学校へつながっていくということで、私立園と小学校との連携をもう少し密に考えていただければと思います。公立園は密にされているように伺っております。公立園は施設が隣接し、連携しやすいことはわかります。私の園では離れた場所にありますので、出向いていくにも問題があります。

以前、オープンスクールの案内を小学校から送っていただきました。その案内を見て、この機会に、小学校の経験をしたことのない園児を連れて行ってあげようと思い、小学校の校長先生にお電話したところ、「子どもを連れてくるのはご遠慮ください」というニュアンスのことを言われました。

きっと、突然の申し出で、いろいろと準備もあるのだろうと、そのときは園の職員 2 名でお伺いすると、公立園の先生が子どもさんを連れてオープンスクールに来られていたことがありました。

いろいろな会議で、言い続けて、「もっと小学校にアピールして、アプローチしなさい」と指導されたのですが、「もしも、あなたの園の子どもたちを連れて来るのであれば、他の民間園の子どもさん全部を受け入れないといけない」ということを、学校の先生から言われました。

その日に全員を連れていくことを私たちは無理にお願いしているのではなく、やはり学校にもいろいろカリキュラムがありますし、ご都合もあると思いますので、何らかの機会に邪魔にならないように学校の学習風景や設備環境を子どもたちに視覚的に見せてやるのが大事だと思います。

小学校に足を運ぶということで、子どもたちの不安は解消されると思います。また、小学校の先

生も園に見学に来てくださってもいいかなという思いもあります。

公立園では運動会の練習風景や夏休みの作品展の見学にも行っておられますが、民間園では足を運ぶ機会がありません。保幼小の連携に関する国からの補助制度もあります。学校、教育委員会にもアプローチしていただき、民間の方も同じ市民の子どもさんですので、そのあたり考えていただける加西市になればと思い、ちょっと意見を言わせていただきました。

#### ○B 委員

今、C 委員から幼小の連携事業についての改善が 1 点ございました。次の話は、会長もおっしゃいましたように、この子ども・子育て会議というのがキャパの調整の場、需給調整であると私も認識しております。何を需給調整するのかというと、新しい時代を迎えて新しい形の子ども施設、保育施設を整備していかないといけないという、そういう大きなテーマが日本全国あります。それによって、どういう形で園をつくっていくか、新しい施設をつくっていくかということで、この子ども・子育て会議に関しては、現在の状況で見て、無駄なものをつくりすぎないこと。今、待機児童が多いからといってたくさん、つくってしまうと、恐らく 5 年、10 年後には負の遺産化して、がらがらになります。そこを 5 年、10 年スパンで考えて、無駄なものをつくらない。そのための需給調整の最大の場合、この子ども・子育て会議で、いろんな分野の方が集まっておられると認識しています。加西市では、現在、公立園は統合して大規模化する形で進んでおられて、加西こども園、そして今年は北条ならの実こども園、それから泉こども園が 2 年後ですか。

○事務局            そうです。

#### ○B 委員

2020 年に定員 250 人で計画を進めていることも聞いています。非常に供給側は増えるわけですが、この供給に対しての需給調整ということで、この子ども・子育て会議があるにもかかわらず、事務局には蒸し返して悪いですが、過去 2 年間、平成 28 年から 30 年の 2 月まで、2 年間、泉こども園の建設計画を地元で説明して進めている間にこの子ども・子育て会議が 1 回も開催されていない。需給調整の場である子ども・子育て会議にかけてないということが、私はちょっと問題があるのではと思います。これは、子ども・子育て支援法にも子ども・子育て会議には諮って需給調整をするべきと書いてあります。また、加西市も条例をつくってそのようなことをうたっているわけですから、自らつくったルールを自ら守らないでいる。言い過ぎかもしれませんが、あるかもしれないと思います。

それで、今日用意いただいたのは、2018 年度、2015 年度、2013 年度の入園児童数というものです。4 月 1 日現在でどれぐらいのお子さんが入園しているかということですが、この 3 年間で状況が大きく変わっております。加西こども園、北条ならの実こども園が開園して、公立が非常に大きな大型園で、保育サービスも民間と十分対抗できるものをつくってこられました。どう見ましても、民間園で経営的に影響を受けて、子どもを減らしている園も出てきております。ただ、公立園が大きくなって、そこへ行っただけの理由とは言えません。いろんな理由があると思います。

保護者が園を選ばれるのは、いろんな理由があります。実際にこの 5 年間で、加西市の状況、特に供給側の状況が大きく変わって、例えば、民間園の富田保育所さんは、平成 25 年度 133 名から平

成 30 年度は 89 名、マイナス 44 名。北条保育園は、154 名が 130 名で、マイナス 24 名。白竜は、136 名が現在 120 名で、マイナス 16 名となっています。増えている園もありますが、30%以上減るところもあって、これはやはり影響しているかなと思います。

そうすると、2 年後に泉こども園が大型化して 250 人の大規模園になると、民間園の経営にどのような影響を及ぼすのか考えておられるのかどうか。今、加西市の子どもたち、平成 30 年では 1,271 人のうち、649 人は民間園に行っている。公立が 622 人。半分は民間に行っているわけです。仮に経営できなくなって、民間ですから潰れることも十分あります。潰れてしまうと、それは大きく受け入れ体制、供給側が減ってしまうことですから、これも決してあってはいけないことで、これは明らかに民業圧迫ってことですから、一番行政がやってはいけないことですよね。その点、その先のことについてどう考えておられるのかということもお聞きしたいと思います。

これは第 4 回泉地区就学前施設整備基本計画の協議会、平成 29 年 1 月 30 日。市役所の多目的ホールで開かれております。さまざまな方が発言をして、その中では反対意見とか、不安だという意見も出ております。市の方が押し切ったというか、まとめていって、泉こども園の計画ができていくわけですが、この経過は私たちには一切わかりません。その点もそうです。もう一つは 250 人の園をつくって、これから大丈夫なのか。

と言いますのは、この社会変化は大きいですから、現在は小規模園がトレンドになっています。前に市長とも話したのですが、150 人ぐらいの園が必要だと言われております。これは平成 12 年に加西市の保育園、幼稚園の望ましいあり方という審議会があり、これは私が座長を、当時のもう一人の小学校の先生と進めた会です。そのときは非常に小規模園が多かったので、経営ができるようにまとめて、ある程度の規模が必要であると。そうすると大体 100 から 150 人あれば経営は安定しますねということで、それで答申を出しております。平成 12 年の話です。そのときに出た数字が今も生きているわけですが、もう 18 年、20 年たち、世の中の情勢が大きく変わっています。

もう、そのような大きな園をつくる時代ではなくて、小規模な園がトレンドになっている。明石市とか加古川市とかの待機児童がたくさんいる園で、今、明石市はどんどん支援ができていくわけですけど、大体 60 人から 80 人定員の園です。加西市のように 200 人も超える園はつくっていませんので、特に 0 から 2 歳児は小規模園が必要に素早く対応しやすい。オンデマンドでいけるということで、これから主流になっていくと思うわけです。

もう一つ、泉地区の子どもは、全部公立の泉こども園に通うということを前提にしておられるようですが、保護者は園を選ぶ自由はあります。これは小学校とは違います。

小学校でしたら学区がありますが、保護者は園を選ぶ自由がある。例えば、宇仁地区の委員さんが言っておられますが、宇仁地区の半分以上の方は多分、加東市へ預けるのではという印象を私は受けました。加西市にも民間園が 6 園あります。そういったところへ流れてしまうこともあるわけです。そんなところも考えておられるのか。

新しい兆候として、キッズラインというのはご存じでしょうか。ここ数年非常に台頭してきた新しい保育サービスです。これは、スマホなんかの SNS のシステムを利用した新卒の保育サービス

で、いわゆるベビーシッターをスマホによって受け付けをして、そして派遣をするという全く新しい形のベビーシッター事業。これは全国で展開しておりまして、今、兵庫県でも姫路市、加古川市、それから三木市あたりも。神戸とか阪神地区ではかなり進出しています。

この場合は、ベビーシッターの利用料金が従来の3分の1になる。ベビーシッターをやっておられるのは潜在保育士です、大多数が。潜在保育士が80万人、90万人いる。なぜか園に復帰しないという話がありますが、これをうまく掘り起こして、彼女たちが働きやすい状況にして、本来やりたかった、子どもとの仕事をする。親は3日ほどベビーシッターが必要だと、そういうときにすぐにスマホで、オンデマンドですぐに来ていただくと。

さらにすごいところは、子どもさんの世話をするだけじゃなくて、ちょっとした家事サービスもこなして帰ってくれることです。だから、大変人気を集めて全国に展開しています。

私も加西市の今の状況が10年後も続くとは考えておりません。世の中は大きく変わると思います。今、10年前のことを思いましても、電車の中でみんながスマホを持つことは15年前には考えられなかったわけですから、今後、加西市にキッズラインが進出してくるのも時間の問題だろうと。

そうすると、0、1、2の保育や一時保育の需要はかなり持っていかれるのではと思います。

そんなことを考えると、250人の大規模園をつくって、もしかすると10年以内に負の遺産化する恐れがあるわけです。10億円を使って、加西市はやれると言っておりますが、ぜひ、子ども・子育て会議で、私たちの民間の意見も聞いていただきたいと思います。民間に及ぼす経営の影響と、それから250人の園をつくって見込みがあるのかということも、お答えをいただきたいと思います。

○会長

B委員、C委員から幾つかのご提案、確認、質問がありました。1点は議事録、これはご検討いただきたいと思います。議事録については固有名詞を使ってもいいかどうか。今までは大体そういう傾向になってきていますので。

○事務局 委員さんの名前はA委員、B委員という形で。

○会長

市町によって固有名詞も出ています。それから傍聴をどうするか。特別の事情がある場合は非公開になりますけど、一般的には公開で、必ず傍聴があるときは委員長として公開してよろしいかどうかで確認をとります。その辺、市の条例等々をご検討いただきたいと思います。

それからC委員からありました幼児期の教育、保育と小学校教育との接続、今日は3つの目標と10の終わりまで育てほしいという。これも、このメンバーの方にはお配りしますかね。幼稚園教育要領、保育指針等をお配りしていますよね。

○事務局 新しい方には、後日お渡ししたいと思います。

○会長

お目通しいただいていますので、C委員の発言内容についても、「ああ、あれだね」ということをご認識いただいたと思います。国の方も3つの目標と10の育てほしい姿というのは、幼児期だけのことでなくて、小学校につながることをある意味では明文化したということですので、今後の

大きな課題ではありますけど、私立においても、当然、教育経営努力といいたいでしょうか。接続、一貫。これは市としても、地域を上げて、学校支援ボランティア等々も社会教育の関連でもありますしね。一体的なこととして進めていくスタンスであると思いますので、その辺も受けとめていただくことは当然かと思えます。加西市でそれがノッキング状態であるとする、これはやっぱり地域課題として、少し克服していく作業努力というのが必要かと思えます。

それから、今度の新しい園との観点もありますが、それも含めて民業圧迫というのは、これは基本的には前提にしない。例えば東京大学、京都大学が定員を今の倍にしてやると、これは大問題になります。定員を縮小ということではなくて、一応の塩梅<sup>あんばい</sup>っていうものをきちっと考えながら設定することは一つの前提になろうと思えます。本当は各大学でも、「経営努力しろ」と言われて、東大、京大はみんな行きたいから定員を倍にしたら、受験料や授業料がものすごく入るわけですよ。でもそれはしてはいけません。

私も兵庫教育大におりました。定員を非常に限定しながら、全体としての調整をしていたこともあります。加西市も当然、既に制度として公立、私立ありのところ。この民業圧迫は調整の中で避けないといけないことだと思えます。地域によっては公立の人件費軽減のために、幾つかの小さい規模を縮小して、3つを1つにすると。そういう人件費の縮小の中での統合ということもあるかと思えます。中には荒っぽく、もう公立を全部やめちゃって、民間に委託という地域もあります。加西市は、その辺は混在ですよ。混在であることを今後も、混在していくことを前提にするという加西市としての経営戦略。これは共通理解をすることで、その前提の中で民業圧迫は避けないといけないという共通理解はおそらく得られていると思えますよね。

そこでの先ほどB委員から出てきました、新しい戦略等もあります。今、加西市の新たな統廃合の中に対するご意見がありました。おそらく加西市としては民業圧迫のためにそれをしているわけではないと思っておりますし、最終的には保護者の選択権というのは否定してないわけですからね。

それから、先ほど小学校は校区があるとご発言がありました。これは、基本的には校区はないのです。校区は暫定的に教育委員会が設けることであって、法律的に校区という規定はないのです。

慣例的に宇仁の子どもは宇仁小学校へ行くとか、そういうことはありますが、法律的に義務ではありません。そこはご発言として修正させていただいて、いかなる公立の園においても、私立においても同様に選択権は保護者にあるという前提で、そのバランスをとりながら、民業圧迫ということは絶対にしないという、加西市長の考え方もそうだろうと思えます。

そこは、会長として整理させていただき、今日いただいたB委員の追加議題も含めて、しっかり議事録を起こして、今後ご検討いただきたい。今日もそのことについての議論をすることを十分予定しておりませんでしたので、取り上げることは限界がありますが、一応問題としては私も認識していますので、承っておきますのでよろしく願いいたします。

ということで、今日のスケジュール、B委員のご提案もありまして、いろいろご発言、ご意見を頂戴したところであります。一応これできょうの2時間という予定ということで5時になりますので、これで終わりたいと思えます。以降については、事務局へお返ししますが、よろしいですか。B委員の発言でコメントがあるようでしたら。

#### ○事務局

1 点だけお話をさせていただきます。民業圧迫ということではなく、お互いに公立も私立も発展していくスタンスでやっていきたいと考えております。問題提起いただいたことは今後も継続しながらお話をいただき、よりよい方向に進めたいと思います。

また、これからもご相談しながら進めていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

#### ○会長

加西市は公私、両方ありますので、それは既存の資産として残しておきたいです。アラカルトというのが一番強い、大切ですから、他のところでは市が私立に全部丸投げして、責任放棄しているところがありますのでね。ちょっとつらいところでもありますけどね。

それから、C 委員がおっしゃった幼児期の教育、保育と小学校教育との、ノッキング状態があるようでしたら、何をやっとするのという、ちょっと注意を申し上げたいですが、事務局のポジションでのことではないかもしれませんね。

#### ○事務局

思いをつなげていきたいと思いますので、これも継続して取り組んでいきたいと思います。

#### ○会長

それからもう1点、これも教育基本法等々においても、あるいは兵庫県の検討の中でも、幼児期の教育、保育所とかはキャバを広げますよね。みんな入れますよね。でも、最終的には子育ての責任は家庭にありますよということは、国においても兵庫県においても同じです。丸投げされても困るわけです。だから、アンケートがあまりにもニーズを十分、100%全部受け入れてしまうという調査票になっても困ります。子育ての最終的な責任は、保護者にあるということを放棄してはならない。調査の内容の方にも、もう保育所に預けっ放し、もう全部お任せしたらいいみたいなところが安易にひとり歩きすると、これは大変なことになりますので、最終的には保護者ということは、いろんな子育て関係の議論を見ましても否定はされません。国の方針によっても子育ての基本は家庭にありますよということは、法律等々でも示されていますので、そこは飛ばないようにすることも大事な前提だと思いますので、つけ足しておきます。

### 5. 閉会

#### ○教育委員会次長

皆様、いろいろな意見をありがとうございました。アンケートの方法につきましては、先生が言われたようにパッケージ的なものになっております。いただいた意見を参考にして内容をまた精査した上で、アンケートを実施したいと思います。本日、第1回目の会議ということで、どうもありがとうございました。